

**児童が思いや意図をもって主体的に歌唱表現できる授業を目指して**  
**－ 楽曲についての聴き取り、感じ取りを深める学習過程の工夫を通して －**

東松島市立赤井南小学校 佐々木 侑

### 1 目指す授業像

- (1) 児童が、楽曲について聴き取ったことや感じ取ったことを基に、曲想と音楽の構造、歌詞の内容を関連付けて考え、思いや意図を持つことができる授業。
- (2) 児童が、音楽を形づくる要素の働きを感じ取り、曲の特徴を捉え、それらを生かして主体的に歌唱表現することができる授業。

### 2 研修テーマ・目指す授業像に迫るために

自己のこれまでの音楽科の指導では、児童が「音楽の授業は楽しい」「歌うことは楽しい」と感じられる授業を目指し、取り組んできた。しかし、児童が楽曲と出合う場面に工夫がなかったり、曲想を感じ取らせるための働き掛けが限定的だったため、児童に楽曲の特徴を大まかにしか捉えさせることができなかった。そのため、音楽的な根拠とのつながりが弱い聴き取りや感じ取りとなり、児童に自ら「このように歌いたい」という思いや意図を十分に持たせられなかった。さらに、歌唱の技能上達に重点を置いた指導となり、児童の思いや意図が歌唱表現に結び付いていなかったことも大きな課題である。

そこで、児童が自らの声で、感じたことや思いを直接表現し、工夫できる歌唱の活動に焦点を当てて授業づくりを行うことにした。朝の会での歌の時間や全校音楽集会、市内音楽会での合唱など、音楽科の授業以外でも児童が歌唱に取り組む場面が多くあるため、授業で学んだことを生かす機会があると考えた。本研修では、児童が楽曲に出合う場面から、曲想や構造、歌詞との関わりについて気付かせ、音楽を形づくる要素を聴き取ったり、曲想を豊かに感じ取ったりする学習過程を工夫することで、「このように歌いたい」という思いや意図を教師が十分に引き出したいと考えた。そして、その思いや意図を生かし、児童が主体的に歌唱表現することができる授業を実践していくことを目指した。

### 3 I期の取組について 【題材名 情景を思い浮かべて、のびやかな声で歌おう（教材名 まきばの朝 文部省唱歌／船橋栄吉）】（教育芸術社 小学生の音楽4）

#### (1) 研修テーマに迫る手立て

- ① 曲想を感じ取らせるために、導入で楽曲を聴く際に聴き取る観点を提示して、聴き取ったことをワークシートに記入させた。その後の展開で音楽的な要素と関連付けられるよう指導した。
- ② 曲想と歌詞を関連付けて思いを持つことができるよう拡大歌詞を提示し、音読させた。聞ききれない語句は教師が説明し、児童が想像しづらい情景は写真を提示して理解させた。
- ③ 児童に考えさせたいフレーズのまとまりを教師がフレーズごとに提示した。始めは、全体の中で曲想と音楽的な要素を関連付けて考えさせ、思いや意図を持つことができるようにした。その後、4人1組で思いや意図を話し合わせた。
- ④ ワークシートに書いた児童の思いや意図を発表させて、学級全体で話し合い、様々な歌い方を試しながら表現させた。

#### (2) 具体的な手立て

- ① 授業の導入部において、教科書を見せずに楽曲を聴かせ、曲想に注目させた。その後、児童が感じ取った曲想をワークシートに書かせた。
- ② 歌詞を音読し、霧に包まれた日の出間近の朝の牧場の情景を想像させた。想像が難しい児童には、牧場に行った経験を尋ねたり、写真を提示したりして、思いを持たせるきっかけを作った。

- ③ 歌詞から読み取ったことや旋律の動きの中で盛り上がる部分、フレーズのまとまりに着目させ、音楽の要素の働きを生かして、どのように歌いたいかについて考えさせた。最後の2小節については、鐘、鈴、笛の歌詞の違いにも気付かせた。
- ④ 児童がこのように歌いたいと感じたこととその理由をワークシートに書かせた。その思いや意図を拡大楽譜に教師が記入し、学級全体として共通理解を図った。

(3) 成果と課題 (○成果, ●課題)

① 曲想を感じ取らせるための工夫

- 教科書を見せずに聴かせることで児童が楽曲に集中して聴こうとする姿が見られた。また、集中力が持続しない児童や視覚優位の児童のために、楽曲の2番からは教科書を開いて聴かせたところ、集中力を欠くことなく学習活動に入ることができた。
- 聴く観点を示して聴き取らせたり、歌詞を丁寧に確認したりしたことで、児童全員が「まきばの朝」の情景をそれぞれ思い浮かべることができていた(図1)。

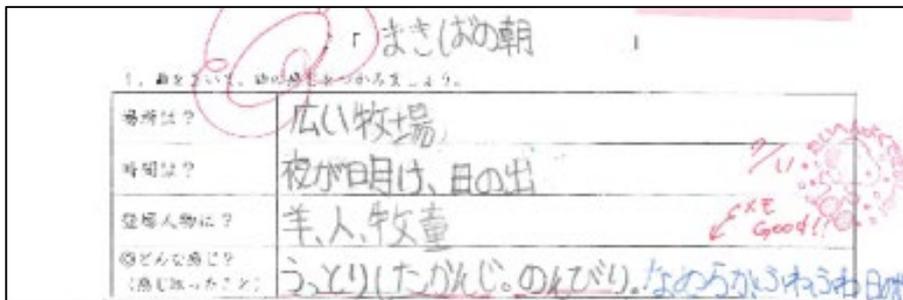


図1 聴く観点を示したワークシートの児童の記述(抜粋)

- 本時のめあて「様子を思い浮かべて工夫して歌おう」を、児童の発言から「牧場の夜から日の出にかけての様子を気持ちよく歌おう」とした。めあてがより明確になり、児童一人一人が理解して学習に臨んでいた。
- 楽曲を聴きながら教科書を開かせる活動は、動作をしながら聴くことになり、1番の聴き取りよりも2番と3番の聴き取りが浅いものになってしまった。
- 歌詞の確認に時間が掛かり、その後の活動に時間の余裕がなかった。歌詞の確認は最小限にし、旋律を捉える過程ではフレーズを一くくりで歌い、間隔を空けずにリズムよく歌わせるようにしたい(図2)。



図2 旋律を捉える過程の様子

② 情景を想像させるための工夫

- 牧場に行ったことのない児童にとって、牧場、霧、羊の群れの写真の提示は有効であった。教科書の挿絵も参考にさせることで、児童なりの牧場の風景を想像し、発言していた。
- より具体的な写真を提示したり、牧場の動画を見せたりすることで児童の学習活動にどのような違いがあるか確かめていきたい。

③ 主体的に歌唱表現させるための工夫

- 楽曲中のフレーズのまとまりを、A～Eの5つに分けた。それにより、児童はフレーズの区切りが一目で分かり、指示する際にも役立った。第2時で行ったグループで歌唱表現を考える場面でも、児童が発表する際に「Aの部分は優しく歌い出したい」と発言しており、聴いている児童も理解してワークシートに書き入れていた。
- A～Eの5つに分けたフレーズのうち、ある1つのフレーズのまとまりのみを、一斉の授業形態の中で取り上げたことが、第2時のグループ活動での手掛かりになり、グループ内で歌唱表現について話し合う活動が進められた。また、第1時で全体の場で考えを発表できた児童は、より自信を持つことができ、フレーズごとの歌唱表現を考えることが難しかった児童へ方向性を示すことができた。

- 時間が足りずグループ活動を十分に行うことができなかった。解決策として、主体的な活動の時間を十分に確保するために、学習内容の時間配分の計画を綿密に行っていく必要がある。
  - 5つのフレーズ内の歌唱表現の工夫は見られたが、楽曲全体を捉えて工夫するまでに至らなかった。今後は全体で楽曲の歌唱表現を考え、更にグループでも楽曲全体の歌唱表現を考えさせていきたい。
- ④ 児童の思いや意図、歌唱表現を書き留めるためのワークシートの活用
- 児童全員が、話し合いを基にフレーズごとの歌唱表現について記入することができた。話し合いがスムーズに進んだグループは、他のフレーズについても話し合い、歌唱表現について考えることができた(図3)。



図3 歌唱表現を記入したワークシート(抜粋)

- 歌唱表現を考える際、「強弱」や「フレーズの盛り上がり」の工夫に偏り、歌詞や曲想を基にした工夫を記入している児童はいなかった。一方で、教師からの問い掛けに、「朝の場面だから静かに歌う」という発言があったことから、児童は歌詞や曲想から聴き取ったり感じ取ったりすることができていたと考える。今後も授業の中で問い掛けていき、板書を写し取らせながら、歌詞や曲想を根拠にした工夫に気付かせていきたい。また、ワークシートに歌詞のどの部分から歌唱表現の工夫を考えたのかを書くスペースを設ける必要があった。
- ⑤ その他
- 学級全体の課題であった、地声で歌う児童やのびのびと歌うことができない児童は少なくなり、歌声が変わってきた。高音を無理なく発声できるようにもなった。
  - 教室での学習のため、合唱隊形で歌うことができなかった。教室での座席では、児童同士が離れていることによって、友達の歌声が聴こえず、安心して歌うことができていないようだった。今後は机を前方に寄せ、教室後方に合唱スペースを確保し、そこで歌わせたい。
  - 指導計画を2時間に設定したが、歌詞や旋律を覚えきれていない児童がおり、グループ学習で歌唱表現の工夫を考えることが難しかった。今後は学習内容を工夫し、題材を通して歌う回数を増やし旋律を覚えさせたい。

4 II期の取組について 【題材名 せんりつの重なりを感じ取ろう(教材名 もみじ 文部省唱歌/高野辰之作詞/岡野貞一作曲/中野義見編曲)】(教育芸術社 小学生の音楽4)

(1) 研修テーマに迫る手立て

- ① 情景を想像し、曲想を感じ取らせるための工夫  
楽曲の題名や歌詞、リズム、旋律などに着目させて楽曲を聴かせていき、ワークシートに児童一人一人が感じ取った曲想を書かせ、全体でも確認した。
- ② 旋律の重なりを聴き取り、感じ取らせるための工夫  
歌唱と器楽では、教師と児童に分かれたり、学級を2つに分けたりして主旋律と副旋律を捉え、音の重なりを感じられるようにした。また、鑑賞では図形楽譜を指でたどりながら聴き取り、旋律の動きを捉えさせたり、主旋律と副旋律の楽譜を重ね合わせて視覚的に旋律の重なりを感じ取らせたりした。

③ 主体的に歌唱表現させるための工夫

歌唱教材を扱う学習では、グループ活動を取り入れ、楽曲に対する思いや意図を伝え合ったり、どのように歌うかについて話し合ったりして、児童が主体的に歌唱表現をできるようにした。

④ 児童の思いや意図を歌唱表現に生かすためのワークシートの活用

I期同様、記入項目を少なくし、考えたことが分かるようにワークシートを用いた。考えた歌唱表現や既習の音楽記号は教科書に直接書き込ませた。

⑤ 学習の場の設定の工夫

合唱隊形で歌わせることにより、児童が互いに声を聴きながら安心して歌うことができるようにした。また、教室後方に合唱スペースを設け、児童が互いの歌声を聴き合う活動を取り入れた。

(2) 具体的な手立て

① 情景を想像し、曲想を感じ取らせるための工夫

他教科との関連や生活体験から、児童は紅葉について理解していると考えた。そのため、歌詞の中にある植物（モミジ、マツ、ツタ）が紅葉している写真を提示し、より具体的に歌詞の情景を思い浮かべられるようにした。楽曲の観点（季節、場所、歌詞に出てくる色）を提示し、歌詞を見ながらワークシートに記入させた。曲想を感じ取られるよう、リズム、旋律に着目するように指示し楽曲を聴かせた。さらに児童が想像する「もみじ」の情景を絵に表し、学級内に掲示した。

② 旋律の重なりを実感させるための聴き取りの工夫

主旋律と副旋律の重なり合う部分を教師が演奏し、重なり合う美しさを聴き取らせた。また、主旋律と副旋律の楽譜を重ね合わせ、視覚的に分かるようにした。旋律を捉える過程では、自信を持って主旋律と副旋律を歌えるよう、教師と児童に分かれたり、学級を2つに分けたりして歌い、音の重なりを感じられるようにした。

③ 主体的に歌唱表現させるための工夫

学習リーダーを中心に、楽曲「もみじ」のそれぞれの歌唱表現の工夫を考えさせた。

④ 児童の思いや意図を歌唱表現に生かすためのワークシートの活用

記入項目を少なくしたワークシートに、考えたことを書き込ませた。また、児童が考えた歌唱表現の工夫は教科書に書き込ませるようにした。

⑤ 学習の場の設定の工夫

教室でも児童が集まり合唱ができるよう、教室後方にスペースを設け、ビニールテープで明示した。授業中や朝の会等でも合唱スペースを活用した。

(3) 成果と課題（○成果、●課題）

① 情景を想像し、曲想を感じ取らせるための工夫

○ 歌詞の中に出てくる植物を提示したことで、児童は生活体験と結び付けていた。「にしき」「すそもよう」などの聞き慣れない言葉も写真により歌詞の解釈につながった。

○ 楽曲の観点（季節、場所、歌詞に出てくる色）を提示したことで、1番の「秋の山で紅葉している場面」と2番の「紅葉した葉が水の上に落葉した場面」の違いに気付くことができた。

○ 児童が想像する「もみじ」を絵に表す課題は、家庭学習としたが、楽しみながら取り組んでいた。また、互いに楽曲を聴いての感じ方の違いを見付け、友達のよさに気付く発言や様子が見られた（図4）。

● リズムや旋律の特徴に気付くことができた児童もいた一方で、気付いてもどう言葉で表現するかについて迷う児童もいた。今後は、気付くことができた児童の発言を取り上げ、他の児童にそれについてどう思うか尋ねるようにし、聴き取り、感じ取ることができるようにしていきたい。



図4 「もみじ」の絵の掲示風景

- ② 旋律の重なりを実感させるための聴き取りの工夫
- 主旋律と副旋律の掛け合いや3度の音の重なり合う部分を教師がピアノで演奏したことで、それぞれの旋律の違いや音の重なりに着目できるようになった。
  - 主旋律の楽譜を透明なシートに書き写し、副旋律の楽譜と重ね合わせたことで音の重なりを視覚的に捉えた。掛け合いや3度の音の重なりに多くの児童が気付いていた。
  - 旋律を捉える過程では、教師と児童に分かれて主旋律と副旋律を歌うことで、多くの児童が音の重なりを感じて自信を持って歌うことができた。
  - 旋律の重なりを客観的に感じることはできたが、後半部分の副旋律「松をいろどる～」や「山のふもとの～」の部分は音程が不安定になり、主旋律につられてしまった。今後は、取りにくい音程の幅を手の高さで表すことで、気付かせたり、音程が不安定な部分を繰り返し歌わせたりすることで、自信を持って歌えるようにしていきたい。
- ③ 主体的に歌唱表現させるための工夫
- 歌唱表現をペアやグループで考えさせた。また、児童から挙げられなかった表現は教師が全体に問い掛けて考えさせた。出された表現は拡大楽譜に記入し、共通理解が図られた。
  - 歌唱表現について考えさせる活動を4月から行ってきたため、児童は歌詞から考えた表現や旋律の抑揚を捉えた表現、楽曲全体を捉えた表現など様々な表現を考えられるようになった。
  - 既習の音楽記号 *p*, *mp*, *mf*, *f* や *cresc.*, *decresc.* を用いた発言が聞かれるようになった。
  - 前時までの学習活動で、グループごとに歌唱表現を考える活動を行うことが難しいと考え、全体で話し合うこととした。児童は歌唱表現を考えていたが、主体的に活動させることができなかった。今後の学習活動でも、思いや意図を持たせた後に、児童同士の意見交流の場を設け、児童が互いに話し合うことができるようにしていきたい。
- ④ 児童の思いや意図を歌唱表現に生かすためのワークシートの活用
- 多くの児童がワークシートに自分の考えを書くことができていた。児童の思いや意図は発言や記述で児童一人一人を見取ることができたため、ワークシートの利用は有効である（図5）。児童は、既習の音楽記号 *mp* や *mf* を用いて、歌唱表現の工夫を教科書の楽譜に直接書き込んでいた。

2 どのように歌うと「もみじ」の様子が伝わるだろうか。自分の考えを書こう。	
こうやって歌いたい！	「もみじ」と言う歌は、やさしく、美しく、なめらかに歌いたい。
理由	もみじは美しくきれいだから。 元気な声ではなく、やさしく。 すばらしい！！

図5 思いや意図を記入したワークシート（抜粋）

- ワークシートに記入する時間が多くなり、歌いながら考えさせることができなかった。今後は「歌う⇒思いを持つ⇒書く」の流れで、歌いながら考え、記入する授業展開を工夫していきたい。
- ⑤ 学習の場の設定の工夫
- 主旋律と副旋律の両方を学級全員で歌った後に、歌いたい旋律を選択させた。両方を歌う活動を取り入れたことで、それぞれの歌い方について考えることができた。
  - 副旋律は、ピアノの周りに集合させて音程を確認しながら歌わせた。児童は音を聴きながら音程を取ることができた。
  - 同じ旋律のグループで繰り返し歌うことで、徐々に自信を持って歌うことができるようになった。
  - 主旋律と副旋律のグループの位置を離して歌わせたため、学級全体としての重なり合いが感じ取りにくい合唱になってしまった。今後は、合唱隊形や座席を指定するなど、配置を工夫して歌わせたい。

## 5 1年間の総括

### (1) 研修の成果

アンケートの比較により、考察する(表1)。

#### ① 情景を想像し、曲想を感じ取らせるための工夫(質問項目3)

ほとんどの児童が曲想を感じ取ることができたことが分かった。楽曲を初めて聴く際に、旋律、音色、テンポ、歌詞などの観点を提示し、感じ取った曲想をワークシートに書かせたり、それを学級全体で共有したりすることで、豊かに感じ取ることができるようになったと考える。

#### ② 旋律の重なりを聴き取り、感じ取らせるための工夫

旋律の重なりを教師が演奏して聴き取らせたり、教師と児童に分かれて歌ったりすることで、旋律の重なる美しさを感じ取ることができた。また、旋律の重なりを視覚的に提示することも有効であった。

#### ③ 主体的に歌唱表現させるための工夫

グループ活動では、楽曲の思いや意図を伝え合ったり、旋律ごとに歌う練習を行ったりした。児童同士の意見交流は難しかったため、教師が入ることで、グループでの意見交換が成立した。

#### ④ 児童の思いや意図を歌唱表現に生かすためのワークシートの活用(質問項目4)

ワークシートを活用し、楽曲への意図を持つことが難しいと感じている児童が多くいることが分かった。一方、教師からの問い掛けには、自ら考えた意図を発言する児童も多くいた。

#### ⑤ 学習の場の設定の工夫

歌ったり、書いたりする活動があるため、授業時間内の座席等の配置が難しかったが、同じ旋律を歌う児童同士が近くにいることで、安心して歌うことができたことが分かった。

### (2) 今後の課題

児童は題材を通して、楽曲に対しての思いを持つことができるようになった。一方で、思いや意図をどのように歌唱表現に生かしていくかについて課題が残った。教師が児童の思いを受け止め、それをどのように歌いたいと尋ねることで歌唱表現につなげていきたい。また、主体的に歌唱表現するための「主体性」の在り方についても課題が残った。児童の実態から児童だけで活動することが難しい場面もあったため、発達段階に応じて、教師も入りながら考えさせていきたい。さらに、児童が歌ったり、聴いたりする時間を十分に確保し、歌い試しながら歌唱表現を考えられるような指導を行っていきたい。

表1 音楽科における意識調査

(H30.11月実施※(数字)は4月との比較。在籍24人)

質問	はい	いいえ
1. 音楽の授業は楽しい。	22人(+1)	2人(-1)
2. 歌うことが好き。	23人(+2)	1人(-2)
3. 思いを持つことができる。	22人(+2)	2人(-2)
4. 意図を持つことができる。	17人(±0)	7人(±0)
5. 音符や音楽記号が分かる。	20人(+14)	4人(-14)
6. みんなで歌うことが好き。	23人(+2)	1人(-2)
7. 自由記述		
	・曲を聴いて、感想を持てるようになった。 ・音楽を聴いて想像するのが楽しい。 ・記号が分かってきた。	

#### 主な参考文献

- [1] 文部科学省：「小学校学習指導要領解説 音楽編」(平成20年6月) 2008  
 [2] 文部科学省：「小学校学習指導要領解説 音楽編」(平成29年7月) 2017

#### 図表等の許諾について

図2は授業実践の中での児童の様子である。児童が特定できないようにすることとし、児童の保護者から使用許諾を得た。

図1, 3, 5は児童が記述したワークシートである。児童氏名を伏せて資料を活用することとし、児童の保護者から使用許諾を得た。